

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300600		
法人名	社会福祉法人 千寿会		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	熊本県下益城郡美里町二和田1235番地1		
自己評価作成日	令和3年 11月 1 日	評価結果市町村報告日	令和 4年 1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和3年 11月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、美里町の市街地や山脈が見渡すことができ、四季の移り変わりを感じられ、眺めの良い所にあります。特別養護老人ホームやデイサービスと併設しており、施設にいても、地域の方々との交流が続けられる環境にもあります。外の景色を眺めながら、安らぎや安心を感じ、穏やかに過ごして頂けるよう支援に取り組んでいます。また、地域やご家族との結びつきを大切に、その人らしく生活できるように一人ひとりに寄り添いながら信頼関係作りに取り組んでおります。ひだまりでの生活では、本人の出来る事を探しながら、出来る事の継続を目指し、役割作りを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に根付いた事業所での生活は、昔から変わらない山の景色を感じ、穏やかで和やかなものです。昨年からの感染症対策により、これまでのような気軽な面会も受け入れることは難しい状況でしたが、その中でも対策を重ね、工夫しながら家族との関係を築いてこられました。広い敷地には桜や柿等、木や花がたくさんあり、焼き芋を楽しむ様子等、季節折々の写真での入居者皆さんの笑顔が印象的でした。職員間では外部研修への参加が限られたため、オンライン研修の活用も行いながら課題も見出されているようです。法人での取組、これまでの蓄積されたケアだけでなく、更に学ぶ姿勢も感じることができました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りの際に、基本理念の唱和を行い、共通認識としている。今年度は、基本理念の勉強会ができていないため、振り返りの時間を持つために、実施をしたい。	事業所への掲示、毎日の申し送り時の唱和にて職員間で共有しており、昨年度までは理念についての研修機会を持っていた。理念は日常のケアに繋がることから、今年度は、職員研修時に都度、テーマと理念を関連付けて共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、地域の清掃作業へは、コロナ感染防止の為参加できなかった。行事等の中止も相次ぎ地域へ出向く機会がなかった。	今年度は感染症防止のため、事業所・地域相互の配慮もあり交流が難しい状況であった。例年、地域行事では事業所からも準備段階から参加している。地域への認知症啓発活動は継続して行っている。	昨年からの感染拡大防止のため、交流が難しい状況が聞かれました。交流が再開された際には入居者も含めた交流がなされることに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座へ講師として参加予定だったが、コロナ感染拡大の為、中止となった。年明けに中学校での講演予定があるが未定。サロンへ職員が出向き、認知症の啓発活動や、体力測定を行い、学びの場となった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、感染拡大防止の為、1回のみ開催となっている。(他は資料の提出のみ)感染拡大防止の取り組みなどの意見交換を行った。	今年度の会議開催は難しい状況であったが、役場へ都度開催の相談を実施・書面報告を行っている。開催時には書面報告分も含め廻って事業所の取組や状況を報告し、意見等を頂いた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	感染拡大防止の為、行政とは会議など相談をしながら開催の有無を決定した。また、事故報告など細かく速やかに報告を行い資料を提出するなど心掛けた。	日常的に報告・相談は早めに行い、事業所の現状を都度伝えている。運営推進会議開催にあたっては実施可能かの相談も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則、身体拘束は行わないとしているが、センサーの検討などを行い運営推進委員会で報告を行っている。また、身体拘束に関する勉強会を行い理解をするよう努めている。	法人として身体拘束を行わないケアを基本とし、身体拘束廃止に向けた5つの方針、日常ケアにおける留意事項5項目を策定している。留意事項には「自由を制限しない」「やむを得ないと拘束に準ずる行為をしていないか？」の項目もあり、センサー等の必要性が問われる際にも十分な検討を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、虐待につながらないように努めている。		

認知症対応型共同生活介護グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護を利用している方はいないが、勉強会などで学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、主に管理者が行っている。その際に説明をし今後の事などの話を行っている。また、不安や質問等を聞き対応を行っている。入居後も相談や不明な点等面会時や電話などで対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現状については、法人の運営会議で報告している。要望なども伝え対応を行って頂いている。	昨年度よりこれまでのような面会受入れが難しい状況であったため、家族とは電話連絡が多くなった。毎月事業所から家族へ近況報告書を送り、入居者の様子を伝えることはコミュニケーションにもなり、意見を表すことができる関係作りを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者がミーティングや個別での相談を受け付け、必要であれば、理事長などへ相談を行い対応を行っている。	日々の申し送りの時間を充実させ、職員の提案や意見を表すことができる機会は日常的に作られている。勉強会で出た意見や職員個人からの意見等、必要に応じ管理者から法人へ報告し、検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	メモリアル休暇を8回/年取得でき、職員のストレス軽減・リフレッシュにつなげている。また、個別の研修受講なども勤務を配慮し受講できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修・ひだまりの勉強会などへの参加を促し学ぶ機会を作っている。また、今年度は、web研修を取り入れて、勤務時間内に研修を受けられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染拡大防止のため、宇城ブロックの勉強会の開催が無かったため他事業所との交流機会がなかったが、法人内での勉強会などで法人職員同士での意見交換などは出来ている。		

認知症対応型共同生活介護グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報は、職員間で共有を行い、入居後もご利用者の声を聴きながら安心して生活ができる様ケアに取り組んでいる。要望にできる限りこたえられるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や面会時などご家族の思いや不安・要望などの把握に努めている。 入居後も、関係性が築ける様、コミュニケーションを取りながら安心して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望・不安等を話をしていく中でくみ上げ、要望に沿えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事・出来ないことを見極め、本人の負担にならないよう役割を持って頂き、出来ない所の支援を行い、日常生活の		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染拡大防止のため、家族参加の施設行事が中止となり、一緒に何かを行うことは出来なかったが、感染状況に応じ面会を緩和したり、電話などで関係性が途切れないうように取り組んだ。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ふるさと訪問を計画していたが、感染状況から行うことが出来なかった。同敷地内の事業所に知人に会いに行ったり、面会を中止にせず、条件をつけることで会いに来れる環境を作った。	感染症拡大の状況をみながら隣接する事業所を訪問し知人等との関わりを支援している。面会も方法を工夫しながら受入れを継続してきた。入居者の「今できること」を大切に馴染みの関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	合同でレクリエーションをしたり、施設内での行事は開催し、交流を持てるように努めた。		

認知症対応型共同生活介護グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	感染症の関係で、他施設へ入居された方へは面会には行けなかったが、同法人内へ移られた方は、退居後も面会に行ったり、職員への情報の提供など行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを日常の会話の中で聞き、職員で共通認識として把握していけるよう努めている。出来る限り意向に添える形を取りたいが、難しい場合は、話し合うなどの対応をしている。	近年高齢化も進み、思いを表すことが出来る入居者が減ってきている。日頃の寄り添いの中で入居者への声掛け方法を工夫し、意向や希望の把握を行っている。家族への連絡も行い、入居者・家族の意向確認に努め、申し送り時に共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報から、今までの生活状況などを担当ケアマネやご家族より話を聞き入居後の生活支援等に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、全員のバイタルチェックを行い体調の変化等の早期発見に努めている。また、身体面・精神面の変化も記録に残し、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、各担当で実践シートの作成を行い、ケアの変更が必要な場合など、職員のそれぞれの意見を聞きご家族へ相談をしながらその人にあったケアの選択をしている。	日々の入居者の情報は日々の申し送りで共有し、各入居者の担当者からの情報も併せ介護計画作成担当者が中心となり作成している。2ユニット入居者の情報を実践シート等を利用し全職員で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記入する個別の記録にもプランを記入し、毎日チェックを行うようにしている。また、各担当で1回/月実践シートを作成し、変化がわかるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族のご要望があれば、希望に沿った病院の受診計画や受診付き添い、また、他施設へのサービスの移行など柔軟に行っている。また、同法人のPTなどに、ケアの相談など行っている。		

認知症対応型共同生活介護グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策のため地域へ出向くことが出来なかった。面会の緩和を行ったが、面会がご家族が多く、地域の方が出向いて来られることは少なかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が協力医であれば、月2回の訪問診療で、必要時に外来受診を行っている。協力医以外の主治医の場合は、ご家族の協力を得て受診を行って頂きその際、情報の提供を行っている。	現状殆どの入居者が協力医を主治医としている。協力医以外、専門医等の受診は基本的に家族による通院をお願いしている。家族の付き合いが難しい際や緊急時は職員にて対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化などは、看護師へ報告し、医療との連携をとれるようにしている。また、不在時などは、他部署の看護師の協力を得て適切な医療を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際など、面会が出来なかったため病院との電話での情報交換に努めた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療依存が高い方などは、ご家族と話をすることでひだまりで出来る事を説明し、希望があり、医療へつなげるケースがあった。また、病院の連携室へも相談をするケースなどもあった。契約の時点で重度化における指針を説明を行い、必要時再度ご家族へ相談を行っている。	入居の際に重度化や終末期に向けた方針を説明し同意を得ている。実際にその時期を迎えた際は家族や主治医等の話し合いを重ね、事業所での生活を希望される際は受入れ、支援している。看取り期においても心地よい時間を過ごして頂くための支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応の勉強会を行った。また、内部研修会で、心肺蘇生・AEDの使い方の講習があり数名が受講した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人での避難訓練が感染拡大防止のため出来なかったが、今年度は、発電機の使い方などの勉強会を行った。	自然災害はあまり心配のない地域ではあるが、台風等に備え停電に伴う発電機の使い方の訓練を重ねた。これまでの経験から、避難訓練だけでなく工夫を重ねた訓練に繋がってきた。	今年度は隣接する事業所全体での訓練は難しい状況もあったようです。災害時は自事業所だけでの避難・対応が必要な時もあるかと思えます。事業所職員だけでの訓練も必要かと考えます。

認知症対応型共同生活介護グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関しての勉強会を行い、ケアの振り返りを行う時間を確保、ケアに活かせる様に努めている。	入居者の尊重とプライバシーの確保に関し、権利擁護等も併せて職員研修で学び共有を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で本人の思い・希望などをくみ取り、出来る限り思いに添える様取り組んでいる。また、集団生活の中でご利用者の一人一人の思い(決定)を尊重するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の時間や食事・入浴など本人の意思を尊重し柔軟な対応を行っている。活動なども無理をせず、本人の意思に任せている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服などは、選べる方は一緒に選んで準備をしている。散髪など施設に地元の理・美容師さん呼び、散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の管理栄養士の献立に基づいて食事を提供している。ご飯・汁物のはひだまりで作っている。その他に、おやつ作りなどで出来る作業の手伝いをして頂いている。イベント時はメニューを変更し対応をしている。	主菜・副菜は隣接事業所で作られた食事を提供している。法人内での調理であるため、入居者の摂取状況や形態、栄養管理等相談しながら提供できている。入居者家族からの野菜や食材の差し入れもあり、副菜やおやつ等、事業所での手作りも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	変化に応じ、食事のチェックシートを活用し、把握に努めている。また、咀嚼や嚥下機能に問題がある場合は管理栄養士と相談しソフト食やゼリー食を提供している。医師・管理栄養士と相談しながら対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	4回/日口腔ケアを行い、口腔内の清潔の維持に努めている。必要に応じて、訪問歯科を利用している。		

認知症対応型共同生活介護グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を活用し、排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄を目指している。また、運動・水分補給で排便がスムーズに出来る様努めている。	出来るだけトイレでの排泄に向けた支援を行っており、現状では日中は全入居者のトイレでの排泄を支援している。基本的に皮膚疾患予防や履き心地の良さから出来るだけ布パンツを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ下剤に頼らず運動・水分補給などで便秘の予防に取り組んでいる。必要時に牛乳などで排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1回/3日入浴支援を行っているが、拒否があった場合は時間・日にち・対応職員・場所を変更するなどの対応を行っている。体調不良の場合は、日にちを変更するなどの対応をしている。	基本的に3日に1回の入浴を支援している。ユニットそれぞれに浴室があり、片ユニットに機械浴が備えられている。ユニット間で入浴時間をずらす等、緊急に備えた職員体制にも配慮している。着替えを職員と一緒に選ぶ等、選択の機会も作っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、離床を促すことで夜間の安眠につなげられるように活動を行っている。体操や散歩・脳トレ(文字並べ・ぬり絵等)にも取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服内容はファイルや内服保官庫にあり、いつでも確認が出来るようにしてある。内服変更時などは看護師より申し送りがあり、情報の共有を行っている。誤薬防止に努め、一人づつの支援や声出し確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事・出来ない事の把握に努め、役割作りを行っている。また、個別でお菓子などをご家族より持ってきていただき、時間関係なくお茶を楽しみながら食べることもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	今年度は、感染対策のためひだまりでの行事として出かけていないが、いくつかの要望があり、ご家族へも相談を行っており、感染が落ち着いたら戸外への計画もしている。他科受診などをされる際は、ご家族と出かけられ、外でお弁当を食べられることもあった。	昨年度からは計画しての外出は難しい状況であった。日々の生活の中では、敷地内の散策や庭での花見、ユニット間の往来等、環境を利用して外気を感じる支援をしている。家族との通院等、外出の機会は大切にしながらも感染症対策への協力依頼も行った。	

認知症対応型共同生活介護グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を自己管理されている方はいらっしゃらないが、必要な場合は、預かり金の中から支払いを行っている。園外活動が無かったため、自分で支払う状況が無かった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいと話される場合は、各ユニットの電話を使い電話を掛けている。また、面会の制限があった為、ご家族からかかってくる場合もあった。手紙は、年賀状の作成の際に自分で文字を書いて頂き郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに2か所のトイレがありスプレーなどを使い、匂いには十分配慮を行っている。室内のレイアウトは季節が感じられるものにした。行事などの写真を飾り見て楽しめるものになっている。	日当たりがよく温かな雰囲気である共用空間は温湿度にも配慮している。事業所では特に臭いに気を付けており、トイレ利用後の処理には手順を設け気を付けている。入居者の状況によってソファの配置を変えたり、お風呂やトイレに目印になる飾りを付けたり等の工夫もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居場所が出来るようにソファを配置し、自分のしやすい場所ですごせるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット以外の物は、入居時に出来るだけ自宅にあるものを持参して頂き、馴染みの物がある空間にしている。レイアウトなども安全面を考慮しながら、ご家族と話し合うこともある。	備え付けられているベッドの手すりには家族了承のもとカバーをつける等、安全にも配慮している。夜間にポータブルトイレを利用される際は朝から本体を拭き上げ、毎回洗って消毒する等、居室の臭いにも配慮し、心地よく安心安全な空間となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やお風呂、トイレなどわかりやすい目印をつけ、理解できるように工夫をしている。また、廊下には手すりがあり安全に移動が出来るようになっている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名グループホームひだまり

作成日 令和4年1月13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	感染拡大防止の為、地域の活動への参加が出来なかった。	感染防止を行いながら、活動参加を行い交流を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の清掃作業への参加 ・地域行事への参加 (準備からの参加を行う) 	12か月
2	35	感染拡大防止の為、事業所全体での訓練が出来なかった。	災害時等に備えての訓練などを幅広く行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ひだまりだけでの火災想定 の避難訓練の実施 ・台風災害に備え、発電機 などの操作の仕方の訓練 ・BCPの勉強会を行う 	12か月
3	20	感染防止の為、面会・外出の機会がなく、馴染みの関係性の継続が難しい。	感染状況をみながら、個別でのふるさと訪問などを再開する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族の協力を得ながら、 ふるさと訪問を行う 	12か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。